昭10
A
455

朝鮮鑛業の概況

立憲民政黨
政務調査館

昭10
A
455

10. 7. 9

昭10
A
455

朝鮮鑛業の概況

（昭和九年十二月）

目次

一　概　況……一
二　有用金屬鑛物……四
金・鐵・タングステン鑛・水鉛鑛・滿俺鑛・ニツケル鑛・鉛及亞鉛・銀・銅・砒・安質母尼・蒼鉛・コバルト・水銀
三　有用非金屬鑛物……一七
石炭・黑鉛・重晶石・明礬石・螢石・雲母・マグネサイト・高嶺土・硅砂・滑石・石綿・硅藻土・酸性白土・含油頁岩・セメント用石灰岩

四　中央乾式製錬所……二九
　鎭南浦製錬所・興南製錬所
五　永安石炭低溫乾餾工場……三四
六　兼二浦製鐵所……三四

朝鮮鑛業の概況

一、概　況

朝鮮は實に世界に稀れなる鑛山地帶である。殆んどあらゆる鑛物を抱藏する點に於て、朝鮮の如き地域は、全く地球上にその類例を見ないと云つてよい。

朝鮮に於て、今日迄に發見せられたる鑛物は既に百十餘種に達し、有用鑛物として重視せらるるものが三十餘種に及んでゐる。就中金は殆んど全土に賦存して、朝鮮全體が宛然一大金山であるの觀を呈して居る。從つて近年は金市價の昻騰と本府の積極的産金奬勵とによつて、金鑛業は異常な發展を遂げ、大規模の鑛山は素より、小規模の鑛山に至るまで、競つて事業を擴張し、設備を充實せしめて、その經營を合理化しつゝある。しかも新に事業に着手する鑛山は、日に月に增加して、詢に前古未曾有の活況を呈して來た。

金に次ぐ鑛物としては、鐵・石炭・黑鉛等が埋藏量の豐富な點より、從來重要鑛物として列擧せられて來たものであるが、近年に至り新にマグネサイトの尨大なる鑛床が發見せられ、又明礬石・重晶石等の開發が促進せられて、何れも工場化するの傾向があるから、朝鮮の重要鑛物は今後尚ほ幾多の鑛種を列擧せ

ねばならぬこと〻なる。

鐵は一時不振の狀態であつたが、對外爲替關係と隣邦滿洲國建設事業の進展に伴ひ、前年來重工業の殷賑を招來して俄かに需要を喚起し、市價亦昻騰せるため、鮮内唯一の日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所は著しく活況を呈して來た。從つて各鐵山に於ても鐵鑛産出の增加に努力して居る。

無煙炭と黑鉛とは、何れも品質優良にしてその埋藏量も亦豐富である。しかも無煙炭は内地に於ける需要が年々增加して、その販路は煉炭として家庭燃料たるに止らず、漸次鐵道工場等に浸潤して、今日の産出狀態では、全鮮の各炭礦が全力を盡くすも、恐らくその需要を充足せしむることは不可能であらう。

黑鉛は朝鮮には鱗狀も土狀も産出する。鱗狀黑鉛は從來印度錫蘭産のものに壓迫せられてゐたが、近來は採算點上に上つて活躍してゐる。殊に土狀黑鉛は内地の需要を充たして、歐米に輸出する狀況である。

水鉛とタングステンとは、本邦領域内では何と云つても朝鮮がその特種産地である。之れ等の鑛物は需要の增加に伴つて、朝鮮の産出量は何處迄でも增加する、實に不思議な作用をもつて居る。これなどは明らかに世界に於ける有力な産地であらう。

螢石も近年に至つて優良な鑛床が發見せられた。日本内地に於ける需要は、從來支那産のものを主として居たが、對支關係の變動によつて朝鮮産のものが迎へらる〻やうになつた。之れも需要に伴つて開發された鑛物の一つである。

高嶺土の優秀性も漸く認識せられて、耐火煉瓦原料として歡迎せられ、今や復州産の硬質粘土を完全に驅逐するに至つた。

此の外朝鮮には多種多様の鑛物を産出する。雲母・石綿・滑石・鉛・亞鉛・水銀・安質母尼等、内地には珍らしい特種鑛物があり、最近には軍需鑛物として重視せらる〻ニツケル鑛が發見せられ、續いてリシウム原料たるリシヤ雲母が發見せらる〻等、新規鑛物の續出に世人は驚異の眼を睜つてゐる。今後果して如何なる鑛物が出るか、朝鮮鑛業界の將來は全く豫測を許さぬ實狀である。

斯くの如く幾多の重要鑛物を抱藏する朝鮮の特異性は、日本帝國にとつて實に重大なる關係を有する。卽ち一朝有事の際には、國家の要求する各種の貴重なる鑛物は、朝鮮半島よりこれを供給することが出來る。しかも此の事實と金の普遍的存在とは、近時漸く内地の資本家に認識せられて、一時朝鮮より退却したる幾多の大資本家は、今や陣容を新たにして殆んど復歸した。のみならず、金鑛業の急速なる發展は、在鮮鑛業家を刺戟して、産金鑛業會社を組織せしめたるもの、一二にして止らず、最近に至りては、新に乾式製錬所を建設せんとするの擧を見るに至つた。

豐富無限の天然資源を有する朝鮮が、有力なる内鮮鑛業家によつて、積極的に開發せられむとする傾向が顯著であるから、朝鮮の鑛業界が堅實なる基礎の上に、眞に活況を呈し來るのは今後であり、その前途は實に洋々たるものである。

二、有用金屬鑛物

金　朝鮮に賦存する鑛物中で、最も普遍的に存在するものは金である。金は砂金も石金も全道到る處にある有樣で、日本の領域中で朝鮮の如き所は他に求むるこごが出來ぬ。否世界中でも全く稀有に屬する位である。從つて金鑛業の有望なここは論ずるまでもないが、近年は金市價の昂騰著しく、物價勞銀の上昇之れに伴はず、金鑛業は頗る有利の條件に惠まれて、最近異常な發展を遂げて來た。

之れを稼行鑛山に見るこ、數年前までは全鮮で仕事をして居る金山は、僅かに二百内外であつたが、昨今は實に一千數百の金山が産金增加のために活躍してゐる。しかも稼行鑛山增加の趨勢は依然こして持續されてゐるから、今後は益々その發展に拍車をかけるであらう。

特に朝鮮の金鑛業中誇りごするに足るものは、浚渫船を使用して採金するここの出來る幾多の砂金地を有するここである。これは朝鮮には古くから行はれたが、日本並に支那滿洲等には今日まで類例がないのである。然るに朝鮮では現在既に全羅北道の金堤、忠淸南道の成歡、平安南道の順安及肅川等に於て浚渫船を用ひて砂金採取を行つてゐる。又京畿道龍仁及安城、忠淸南道洪城、全羅北道求禮及び咸鏡南道永興附近に於ても、砂金浚渫船を浮べる計畫が目下具體的に進められて居る。其他忠淸北道・黃海道方面に於ても浚渫船を利用し得る砂金地がある。若し夫れ地方人の日役日當に相當する收益を上げ得る砂金地に至つては、文字通り全道到る處にあるこ云つてもよい。斯くの如く多くの砂金地が普遍的に分布されて居る爲め、從つて其本源を爲す金鑛脈も亦無數である。砂金は容易に採取し盡されるものであるから、その採取こ同時に本源に溯つて金脈を發見するものが頗る多く、金山の出願は年々急速に增加し、數年前に比するこ數倍を突破する狀況で、當局は其處理に忙殺されてゐる。

今金鑛の出願件數鑛區數及稼行鑛區の狀況を數字に示すこ次の通りである。

最近に於ける金鑛出願

年別	出願總件數	内金鑛出願件數
昭和三年	八六七	三一五
同　四年	九三五	四四六
同　五年	一、三九二	七三三
同　六年	一、八〇五	一、三七三
同　七年	三、二〇六	二、六二九
同　八年	五、二一〇	四、八〇〇
同　九年（自一月至九月）	六、六四六	六、〇九九

金鑛區

年別	總鑛區	内金鑛區
昭和三年	二、一五一	七二三

昭和四年	二、一七三	七四四
同五年	二、二六二	八二五
同六年	二、三九〇	九九三
同七年	二、七一九	一、三二二
同八年	三、三四三	二、五二六
同九年（自一月至九月）	四、一四三	三、三〇一

金鑛稼行鑛區

年別	總稼行鑛區	内金稼行鑛區
昭和三年末	三六五	二一一
同四年末	三八五	二一二
同五年末	四五六	二八三
同六年末	四九七	三三九
同七年末	八四七	六三六
同八年末	一、四七一	一、二三五
同九年（九月）	一、九三一	一、六六二

朝鮮の金鑛脈は、内地の夫に比すると甚しい差違があり、殆んど全部が硫化鑛物の多い鑛石であるため、内地の鑛業資本家は一寸其性質を了解せず、朝鮮の金鑛床を誤解して投資を躊躇する風があつた。例へば大正八年に朝鮮から總退却した内地の資本家も確かに之れに基くものである。然し近來は稍々此のことを了解したので、再び内地資本家は競つて朝鮮金鑛業界に進出し來るやうになつた。そうして起業探鑛の方法も、よく朝鮮の實情に適應した施設によつて、堅實に實行せられて來たから、朝鮮金鑛業界の將來は先づ穩健着實に發展するものと期待してよい。

朝鮮金鑛地帶は交通機關の發達に伴つて、次第にその範圍が擴大されてゆく、從來人跡未踏の地として顧みられなかつた地方も、鐵道の敷設によつて漸次探鑛の歩が進められ、新らしき金鑛地帶と化しつゝあるが、尙咸鏡南道・咸鏡北道・平安北道の奥地、並に江原道の脊梁山脈地方は今後も續々と金鑛が發見されるものと豫想されてゐる。

朝鮮の鑛床は、下底部に掘進するに從つて多くは各種の硫化鑛物を隨伴すること既述の通りである。從つて山許に於ける濕式製錬のみでは採金困難となる爲め、勢ひ乾式製錬によらなければならない。故に現在各金山では鎭南浦及び興南製錬所の乾式製錬所に賣鑛する外、内地の乾式製錬所に賣鑛してゐるが、最近金鑛業の著しき發展により此の種の鑛石が次第に增加し、遂に鮮内に乾式製錬所の增設を痛感せしむるに至り、近來各方面から國營製錬所設置の要望を見るに至つた。此の趨勢に鑑みて研究の結果、相當の自營鑛山を所有するに於ては、乾式製錬事業を經營することは、採算上必ずしも不可能でないことを知り、有賀殖産銀行頭取の主唱にて、最近金鑛製錬會社の設立が計畫發表され、昭和九年度内に會社の設立事務

を了し、近く乾式製錬所の設置を見る豫定である。

朝鮮の金産額は近年著しく増加した。これは勿論金市價の昂騰が然らしめたものであらうが、朝鮮總督府に於て、積極的に金鑛業を奬勵するの擧に出で、探鑛補助費を交付する制度を制定實施したことが、有力な原因をなして居るものと思はれる。實際鑛業家は補助費の交付に鞭撻せられて、自發的には探鑛の意思なき坑道の探鑛に專念し、爲めに意外なる優良鑛床を發見して採掘鑛量を増加した例が頗る多い。否むしろ、補助費を交付せられた金山は比々皆然りと云つてもよい位である。此の事實はまさに注目に値ひする。

最近の金産額は次ぎの如くである。

最近に於ける金産額（金地金、金銀鑛石）

年別	産額
	千円
昭和三年	七、五〇七
同四年	七、七二二
同五年	八、三二二
同六年	一〇、一三七
同七年	二一、二一五
同八年	三一、三〇〇

鐵

鐵鑛の主要賦存地は黃海道・平安南道・忠淸北道・江原道・咸鏡南道・咸鏡北道等である。目下採掘してゐるものは褐鐵鑛及び赤鐵鑛で、普通優良鑛（含有純成分五〇%以上のもの）として取扱はれるものゝ埋藏量は約二千萬瓲ある。其他は未だ稼行されないが、その將來を重要視されてゐるものは咸北茂山の磁鐵鑛床である。この鐵鑛床は平均品位四〇%、推定埋藏量約四億瓲、正に滿洲國鞍山の鐵鑛床に匹敵するものである。しかも鞍山鐵鑛の平均品位は約三八%で、鑛石は磁鐵鑛及び赤鐵鑛の混合物であるのに反し、茂山地域のものは品位之れに優り、且磁鐵鑛のみにして、鑛粒も大なれば、選鑛に際して鞍山産の如く細粒に粉碎する必要なく、又焙燒する必要もない。之れ等の點に於て當然茂山鐵鑛の方が勝つて居るのである。尙最近慶尙南道金海郡・密陽郡、江原道襄陽郡、忠淸南道瑞山郡、其の他にも新しく鐵鑛床が發見されたが、未だ其埋藏量は詳かでない。

鐵鑛石の年産額は約五十萬瓲で、その約半分は內地に給鑛し、半ばは朝鮮で製鐵原料に供せられてゐる。日本の鐵鑛需給狀況を見ると、その需要年額二百萬瓲の內、百五十萬瓲は支那及び南洋から供給され、內地産のものは釜石・倶知安其他の鑛山から僅々三十萬瓲を供給されてゐるのに過ぎない。鐵の如く軍事上、産業上、何よりも重要なる鑛物の國內産出が、斯くの如き狀態であることを、冷靜に考察したならば、朝鮮の鐵鑛床の存在は、國家の爲め極めて重大なる意義を有するものと云はねばならぬ。

最近の鑛區及鑛産額の狀況は左の通りである。

鐵鑛區

年別	總鑛區	內稼行鑛區
昭和三年	一六八	二九
同四年	一五六	二六
同五年	一四九	二九
同六年	一四二	二四
同七年	一三八	二三
同八年	一三四	三二

鐵鑛生產額

年別	鐵鑛石 鮮內需要	鐵鑛石 內地移出	計
昭和三年	二八四、七一一瓲	二一九、六六四瓲	五〇四、三七五瓲
同四年	二六七、〇九八	二八四、七一六	五五一、八一四
同五年	二七七、四四六	二五五、〇五一	五三二、四九七
同六年	二四七、一七八	一六四、七一二	四一一、八九〇
同七年	二三九、五二四	一五一、四一三	三九〇、九三七
同八年	二六四、二八六	二五八、二六七	五二二、五五三

タングステン鑛　特殊鋼材料としてのタングステン鑛は、水鉛鑛・ニッケル鑛及滿俺鑛と共に頗る重要なるものである。朝鮮に於ける本鑛の埋藏地域は、京畿道・忠淸北道・忠淸南道・全羅北道・慶尙北道・黃海道・江原道・平安北道・咸鏡南道・咸鏡北道の各道に亙つてゐる。その產出狀況は黃海道谷山郡のもの最も多く、江原道金剛山地方、忠淸北道芙蓉・堤川・忠州地方、忠淸南道靑陽郡等もそれ〴〵重石產地として著名である。尙最近咸鏡南道長津郡地方に可なりの鑛床が發見されてゐるが、未だ多くの產出を見るに至らぬ。

此の鑛業は歐洲大戰當時異常の活況を呈し、大正七年には輸移出額一千瓲を越へたが、戰後軍需工業の衰退と共に萎靡して振はず、年額僅に十七・八瓲を產するに過ぎなかつた。然るに最近需要增加し昭和八年には百五十二瓲を產出し、九年には四百瓲を超過するを見られて居る。

鑛產額並に鑛區

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	一三、九九七瓩	八、〇四八円	二
同五年	一一、六四二	六、二一六	一
同六年	一六、〇五〇	七、一五四	一
同七年	五七、二五〇	二九、八四五	二
同八年	一五二、五〇〇	一一七、二三四	四

水鉛鑛　本鑛石は本邦彊域中、朝鮮以外には産出殆んどなく、タングステン鑛と共に朝鮮鑛業界に特殊の地位をたもつものである。賦存地は京畿道・忠淸北道・忠淸南道・全羅北道・全羅南道・慶尙北道・慶尙南道・江原道・咸鏡北道等で、就中全羅北道長水郡及江原道金剛山地方は著名な産地である。産額は大正六年には六十屯の最高記録を示したが、戰後激減し、大正十年から十三年迄は産額皆無となり、同十四年以後に至つて再び二十屯乃至三十屯の産出を見るやうになつた。更に最近製鋼界の好況につれて活氣を呈し、昭和七年には四十四屯、昭和八年は百〇五屯を産出した。尙近時益々需要增加の傾向があり、新規發見出願者が多くなつたから、今後も産額は增加するであらう。

滿俺鑛　本鑛物は今日迄稼行してゐるものはないが、賦存地としては慶尙南道・慶尙北道・忠淸北道・江原道の各道を擧げることが出來る。一般朝鮮人中には、滿俺其他特殊鑛物に關する智識が乏しいので、其の存在を知られないものがあると考へられる。目下のところでは江原道金化郡遠南面、慶尙北道英陽郡首比面等に未稼行の鑛區が存在するのみである。最近慶尙南道金海郡東萊郡等で新鑛床の發見があつたが、未だ鑛量は確めてない。

ニツケル鑛　朝鮮に於ては、從來ニツケル鑛は標品的にのみ發見せられてゐたが、最近江原道・咸鏡南道及忠淸南道等に新に鑛床が發見せられた。この中江原道金化郡及忠淸南道燕岐郡のものは硫砒ニツケル鑛であり、咸鏡南道端川郡のものは硫化ニツケル鑛である。そうして共に磁硫鐵鑛中に含有せられてゐる。燕岐郡のものは頗る高品位の部分もあるが普通一%内外であらう。埋藏量は目下探鑛中で詳かでないが相當豐富なことゝ豫想される。尙此の外に平安北道義州郡其他にもニツケルを含有するものがある。

鉛及亞鉛　鉛及亞鉛は內地の産額少く、年々多量を輸入してゐる。故にこの鑛物の增産は國家のため極めて重要であるに拘らず、朝鮮はまだその開發が遲々として見るべきものがない。けれども平安南道成川郡成川鑛山の如きは、鑛床賦存の範圍廣く、且つ埋藏量も相當大なるものと推定されてゐる。又江原道金化郡、咸鏡南道長津郡・端川郡等の各地では往昔は可成りの銀鉛を産出したものであるが、今日は開發されてをらぬ。尙金銀鑛に隨伴して産出する方鉛鑛も多いが、これはその含有率の高いものだけが、鎭南浦製錬所及興南製錬所等に賣鑛されて、鉛製錬の原鑛として使用せられてゐる。蓋し鑛業家の奮起如何によつては、朝鮮の鉛亞鉛鑛業は、前途尙は發展の餘地は綽々たるものがある。

最近五年間鑛産額

年別	鉛	亞鉛鑛
昭和四年	三三二、九八〇瓩	五、一〇九瓩
同五年	一二九、七四〇	三、八三一
同六年	九七、一六五	—
同七年	四九二、七八二	—
同八年	七八三、五三二	三、一九二

銀　銀は朝鮮に於ては古くより稼行せられてゐるが、多く金銀鑛又は銀鉛鑛として存在してゐる。現在銀を主として產出する稼行鑛山は、平安南道成川郡三德鑛山、平安北道宣川郡松林鑛山、慶尚北道高靈郡高麗鑛山等で其他京畿道安城郡安城鑛山、慶尚南道陜川郡道呑里鑛山等金銀鑛として有名である。又銀鉛鑛としては咸鏡南道端川郡檢德鑛山、同道長津郡烏曼洞銀山等昔より有名で、檢德鑛山は昔加藤清正が銀を吹いた處である。銀鉛鑛は亞鉛鑛と共生すること多く、江原道金化郡の白易山鑛山及法首鑛山にも產し、又咸鏡南道と平安南北道の奥地にも廣く分布されてゐる。故に今後銀鉛鑛として開發せらるゝものは、相當に增加すること思はれる。

最近五年間鑛產額

年別	數量	價額
昭和四年	一、七〇二瓩	五九、八二〇円
同五年	二、一〇一	五八、二〇七
同六年	一一、四〇四	二〇六、六〇〇
同七年	一八、三五一	五五二、七一四
同八年	二一、八六四	七二一、六五一

銅　銅鑛は內地に比しその產出は極めて少ない。銅山として歐洲大戰當時平安北道厚昌郡厚昌銅山、咸鏡北道甲山郡甲山銅山などは採掘製錬をしたことがあつたが、其後休山してゐる。其の他慶尚南道の昌原・咸安・東萊の各郡、忠清北道沃川郡、慶尚北道義城郡に銅山として稼行してゐたものもあつたが、現在は之等も殆んど休山中である。金銀鑛に多く含有されてゐるものは、全羅南道光陽鑛山・黃海道の遂安及笏洞鑛山等である。鎭南浦製錬所で產出せられる粗銅の產額は年七百瓲內外である。今後金銀鑛山に於て下部硫化帶に入れば、更に銅を伴ふものを發見することの出來る望がある。最近三箇年の產額は左の如くである。

	同六年	同七年	同八年
銅鑛	六、一五六瓲	六、五四三瓲	五、九一四瓲
銅	六九八	六九四	七八五

砒　鑛石は普通硫砒鑛であつて各道に發見されてゐるが、主要なものは忠清北道報恩郡報恩鑛山・慶尚北道英陽郡首比面の七寶鑛山・慶尚北道慶山郡の阜谷鑛山・平安南道江東郡の朝鮮亞砒酸會社が經營する鑛山・咸鏡北道會寧郡掘勒山鑛山等である。何れも大正十二・三年前後に採掘し、鑛石及び亞砒酸を販賣してゐたが、大正十五年以降休止してゐた。けれども最近再び砒の需要があるため前記の七寶鑛山の外江原道の旌善郡、平安南道の中和郡等に於ても事業を開始したものがある。各年の產額は次の如くで此の內七寶鑛山の產額が最も多い。（單位瓲）

	大正七年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和八年
砒鑛	一五	二六	一一二	—	—	—
亜砒酸	—	五六	五九三	五〇〇	六六六	一五二

安質母尼 安質母尼鑛は各所の金銀鑛中に含有せられてゐるが其量は極めて少なく、特に安質母尼鑛として稼行せられたものは平安南道陽德郡仁平鑛山だけである。同山は昭和元年から採掘を始め、山元で硫化安質母尼として昭和元年十五瓲、同二年二〇瓲を大阪に移出した。其後は休山してゐたが昭和七年に至つて再び採掘を始め、同年七瓲の産出をなし、昭和八年には二十一瓲を産出した。尙最近忠淸南道天安郡にも優良な安質母尼鑛床が發見せられた。

蒼鉛 忠淸北道・慶尙北道・慶尙南道・黃海道・江原道で金銀鑛及びタングステン鑛と共生して存在してゐるが、未だ其の産出を見ない。けれども市價昂騰すれば金銀鑛又はタングステン鑛の製錬の場合に採取されるであらう。蒼鉛の産地として擧げることの出來るのは、江原道寧越郡鷹峰山及び順鏡鑛山・慶尙北道榮州郡三德鑛山等であつて、全部タングステン鑛と共生してゐるものである。

コバルト 前記の咸鏡北道會寧郡堀勒山鑛山の砒鐵鑛中に含有せられてゐる。砒鑛精製の場合採取されるものである。

水銀 水銀の原鑛である辰砂は、平安南道孟山郡・中和郡・黃海道遂安郡等に産し、現に孟山郡に水銀鑛山がある。其の量は未だ多くはなく、中和郡に於ても起業計畫中のものがあり、將來相當の産出があるものと豫想されてゐる。

三、有用非金屬鑛物

石炭 有煙炭と、無煙炭とがある。

有煙炭は瀝靑炭も僅かあるが、大部分褐炭である。咸鏡北道・黃海道・平安南道・咸鏡南道が主産地であつて、慶尙北道にも産する。

無煙炭は平安南道・平安北道・江原道・咸鏡南道・全羅南道等に産し、就中平安南道南部(平壤炭田)、北部(德川・价川炭田)の兩炭田及び未開發ではあるが、江原道の三陟炭田及び寧越炭田等は重要視すべき有望な炭田である。

有煙炭は主として鮮內で消費せられ、無煙炭は其の大半を內地へ移出し煉炭原料に供せられ、漸く聲價を高めつゝある。就中內地市場に於ける豆炭界には、殆んど獨占の地位を獲得してゐる。

石炭の埋藏量及び最近の鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

有煙炭　埋藏量

咸鏡北道	三億七千三百萬瓲
咸鏡南道	一百萬瓲
黃海道	五百萬瓲
平安南道	二千萬瓲
慶尙北道	一千萬瓲
合計	四億九百萬瓲

無煙炭

平安南道	
南部炭田	三億瓲
北部炭田	四億九千百萬瓲
江原道	三億七千四百萬瓲
慶尙北道	二千七百萬瓲
平安北道	二千萬瓲
咸鏡南道	一億二千五百萬瓲
全羅南道	三百萬瓲
合計	十三億四千萬瓲
總計	十七億四千九百萬瓲

石炭鑛區

年別	總鑛區	稼行鑛區
昭和四年	四四九	六七
同五年	三七九	六八
同六年	三五三	六六
同七年	三四八	六七
同八年	三四〇	七七
同九年(九月末)	三四六	八四

石炭產額

年別	有煙炭 數量	有煙炭 價額	無煙炭 數量	無煙炭 價額	合計 數量	合計 價額	內無煙炭の內地移出高
昭和四年	三九九、六五七瓲	二、六二四、九九四円	五三八、二四五瓲	三、六九六、四九一円	九三七、九〇二瓲	六、三二一、四八五円	二八四、六四八瓲
同五年	四〇五、六六一	二、五〇三、六四三	四七八、四七七	二、八二四、三二三	八八四、一三八	五、三二七、九六六	二三九、一四一
同六年	四一七、五七八	二、三六六、一四四	五一八、八〇四	二、八二三、九二〇	九三六、三八二	五、一九〇、〇六四	三〇六、七四四
同七年	四五二、〇三二	二、二六五、四二三	六五二、一六二	三、七〇四、六九六	一、一〇四、一九四	五、九七〇、一一九	三九五、四七五

昭和八年	五六五、五一七	二、七三四、七四一	七四一、二一七	四、四七〇、六六五	一、三〇六、七三四	七、二〇五、四〇八	四六七、三九五
同九年(自一月至九月)	四一五、〇〇〇	―	六〇〇、〇〇〇	―	一、〇一五、〇〇〇	―	三一五、〇〇〇

備考　昭和九年産額は概算である。

黒鉛　黒鉛は內地に於いては、岐阜縣等に僅少の産出があるに過ぎない。朝鮮には鱗狀及び土狀の二種を産し、品質優良埋藏量豊富であつて、世界に於ける産地として有名である。

鱗狀黒鉛は主として坩堝製造原料に供せられ、土狀黒鉛は電極・電池等に使用せられる。鱗狀黒鉛は從來內地市場に於いては、低廉な印度錫蘭産に壓迫せられてゐたのであるが、最近歐洲の需要が增加してゐるため、輸入が圓滑を缺ぐ傾向となり、漸く朝鮮産黒鉛に期待する向が多くなつてきたやうである。土狀黒鉛は大部分內地に移出せられるが、近年漸次歐米に向け輸出增加があり、鑛産物中唯一の輸出品として前途を囑望せられてゐる。

最近に於ける鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

黒鉛鑛區

年別	總鑛區	稼行鑛區
昭和四年	一六三	三三
同五年	一五二	三九
同六年	一四三	三六
同七年	一三九	二五
同八年	一二四	三〇
同九年(九月末)	一二六	三五

黒鉛鑛産額

年別	鱗狀 數量	鱗狀 價額	土狀 數量	土狀 價額	計 數量	計 價額	內輸出土狀黒鉛 數量	內輸出土狀黒鉛 價額
昭和四年	一、四五三瓩	一三四、五三二円	二三、六九五瓩	三七六、六二七円	二五、一四八瓩	五一一、一五九円	一、四五一瓩	七五、五七八円
同五年	一、九七九	一二九、六一八	一八、〇九四	二九三、六九六	二〇、〇七三	四二三、三一四	一、三四五	五四、六七三
同六年	七五一	一六、〇二一	一三、二九七	二〇五、九五四	一四、〇四八	二三一、九七五	八一九	三三、三七九
同七年	九〇八	三六、二八〇	一五、八二三	二一九、五六七	一六、七三一	二五五、八四七	一、三四四	五〇、三五四
同八年	一、九三七	一〇八、八一五	二〇、七四〇	三五六、八四二	二二、六七七	四六五、六五六	一、七六三	六一、五三七
同九年(自一月至九月)	一、六〇〇	―	一八、〇〇〇	―	一九、六〇〇	―	一、八七二	七八、〇三九

備考　昭和九年産額は概算である。

重晶石　江原道金化郡昌道里附近に豊富な鑛量を有する鑛床があり、品質よく、硫酸バリウム含有量九七％以上保證の鑛石を自由に市場に供給することの出來る狀態にある。埋藏量は九〇％以上のものが、

約百萬瓲と推定せられてゐる。稼行鑛區の主なるものは、前記産地の中川昌道鑛山であつて、其の産額は昭和七年に約六千二百瓲四萬六千圓、同八年に約四千四百瓲五萬一千圓に達し、總産額の大部分を占めてゐる。內地に於ける重晶石及びバリウム鹽類は、從來主として獨逸品を輸入してゐたが、近頃は朝鮮産鑛石の需要が漸次增加しつゝある。尙同鑛山は昭和七年末鑛山附近に製粉工場を完成し、粉末重晶石を移出しており、將來更にリソフオン其他バリウム鹽類に加工して移出する計畫があるといふ。

此の外黃海道載寧郡銀積鑛山が、昭和七年から螢石と共生してゐる重晶石を産出し、又同道黃州郡靑龍鑛山も最近小規模の採掘を始めてゐる。更に又最近黃海道松禾地方に優良な鑛床が發見せられ、埋藏量も多量にあることが明かになつたが、需要交通等の關係から未だ開發の域に達しない。

最近に於ける稼行鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和五年	六、〇九六瓲	六〇、九六七円	四
同 六年	五、四六〇	五四、六〇〇	五
同 七年	六、五六九	五一、六七二	一五
同 八年	四、九六九	五八、四九九	一七

明礬石 全羅南道海南郡の玉埋山鑛山・黃山面鑛山・礬山鑛山と、同道珍島郡加沙島鑛山及務安郡長山島等に産する。從來飾磨化學工業株式會社及名古屋明礬製造合資會社が、明礬製造の原鑛として居たが、最近更に之からアルミニウムの製造をする研究が進み、現に住友合資會社が四國新居濱に於いて玉埋山明礬石を原料とするアルミニウム製造に着手したのを始めとして、日本電氣工業會社が神奈川縣子安に、礬山産の鑛石を以て同じくアルミナの工場を建設してゐる。

埋藏量はアルミナ含有量二〇—三〇%以上のもの約千七百萬瓲と推定せらる。

最近に於ける稼行鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	一〇、八一二瓲	五二、二八七円	四
同 五年	一一、七〇八	五〇、三一五	四
同 六年	一四、一八三	六三、七六四	二
同 七年	一六、三三〇	五〇、一八六	二
同 八年	二七、二二〇	一二九、九三八	五

註 朝鮮全羅南道産明礬石を原料とする輕銀製造の所要原料鑛石は、輕銀一瓲に付十瓲程度であるから、若し現在我國の輕銀需要高一箇年一萬瓲を自給自足するものとすれば、右明礬石を以て約二百五十年以上を維持することが出來且明礬石を原料とするときは原料鑛石の約一割の硫酸加里を副生するから、生産費は夫れ丈け低減することが出來る。

螢石 螢石は朝鮮の非金屬鑛物中有望なものゝ一つである。現在迄に發見せられた主なものは、黃海道載寧郡及び鳳山郡に跨る鑛床であつて、埋藏區域廣く埋藏量約七十萬瓲（七五―九五％）を有してをり、該區域の西部を三菱製鐵下聖鐵山が稼行し、現在最多量に産出してゐる。外に品質の優良なものは最近咸鏡南道洪原郡平浦面及江原道金化郡近北面に發見せられた鑛床で、共に移出をなしてをる。其他黃海道載寧郡銀積鑛山及び同道平山郡物開螢石鑛山も小規模に採掘をしてゐる。

從來內地の螢石の需要は、主として南支那から供給を仰いでゐたが、同地の事變以來供給杜絕し、朝鮮産のものが大部分之に代つたもので、需要の增加に伴ひ、鮮內に於いて新たに發見せらるゝものが漸次多くなりつゝある。尙螢石は製鋼、硝子製造、肥料製造等に用途がある外、アルミニウム製造に必要な人造氷晶石の原料として重用せられ、又最近はセメント製造にも使用せられるので、其の用途は漸次擴張せらるゝ趨勢にある。かゝる情勢の下に於て、朝鮮の螢石鑛業は愈々活況を加へ、今や完全に支那産の輸入を防遏し、而も尙供給力に綽々たる餘裕を有してゐるのは、誠に喜ばしい次第である。

最近に於ける稼行鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	一、四七〇瓲	一〇、二九〇円	一
同五年	二、二九七	一一、四八六	二
同六年	二、六四八	一一、九一六	一
同七年	七、五七七	九四、六九七	三
同八年	九、〇七六	一二二、五六一	七

雲母 現在主産地は咸鏡南道端川郡、平安北道博川郡、平安南道平原郡順安附近で、端川郡には砲手、吉州の二鑛山があり、博川郡には博川雲母鑛山がある。元來朝鮮産雲母は大部分金雲母で從來外國産に壓倒せられてゐたのであるが、最近印度産の內地輸入が少くなつたゝめ、之等の鑛床が漸次重要視されるやうになつてきた。

最近に於ける稼行鑛區及び鑛産狀況は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	二六、一九四瓲	二〇、六五九円	三
同五年	二八、八六四	一九、〇四三	三
同六年	一七、九四八	一〇、一〇六	三
同七年	二〇、四四九	一〇、二七一	四
同八年	二三、〇九四	一二、九四二	三

マグネサイト 前記端川郡の雲母産地附近に、品位及鑛量共に滿洲大石橋鑛床に匹敵する世界的鑛床が發見せられ、既に明瞭な露頭によつて示されてゐる鑛床の部分だけでも、六億五千七百萬瓲に達する

と言はれてゐる。外に咸鏡北道吉州郡合水附近にも發見されたものがある。從來マグネサイトは、大石橋産のものが八幡、其の他の製鐵所に爐材として輸入されつゝあるが、耐火材として使用されるばかりでなく、將來は炭酸マグネシウム（ゴムの混入材）及び金屬マグネシウム製造原料として重要視すべきもので、已に朝鮮窒素肥料會社及朝鮮マグネシャ工業會社が之れを工場化すべく、計畫は着々と進渉中である。

高嶺土　高嶺土は殆んど各道に産する。其の内陶磁器原料としては咸鏡北道鏡城郡生氣嶺炭礦、慶尙南道河東郡安宅高嶺土鑛山等が有名であつて、耐火材としては平壤附近の三神炭礦炭層中に産するもの、及び全羅南道海南郡の明礬石と共生して産するものが優良である。共に内地に移出しつゝあるが、殊に最近岡山地方に移出され、從來同地方に輸入されてゐた、復州産硬質粘土を驅逐しつゝあるのは特筆に値するものである。

最近に於ける鑛産狀況及稼行鑛區は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	八、七二四瓲	九八、七六六円	一三
同五年	八、二六五	五七、三八八	二五
同六年	四、九二四	五七、二〇四	一九
同七年	一二、〇一一	七七、八四〇	一四
同八年	二四、九三〇	一四七、〇九六	一八

硅砂　硅砂は黃海道・全羅南道等の海岸に産する。目下稼行してゐるのは黃海道長淵郡九味浦、全羅南道高興郡錦山であつて内地に移出してゐる。

最近に於ける鑛産狀況及び稼行鑛區は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	八四、六七六瓲	五六、六二三円	六
同五年	四七、三四六	四二、五八二	六
同六年	四〇、六五九	三八、九九三	四
同七年	四三、八五六	五五、三三二	六
同八年	六八、八一八	九六、五四五	四

滑石　咸鏡南道利原郡及び忠淸北道忠州郡に良質の滑石を産する。内地では從來滿洲大石橋産のものを一箇年三萬瓲内外輸入してゐたが、滿洲事變以來朝鮮産品の需要が喚起せられて、斯業漸く擡頭し、その移出量は年々增加の傾向である。

最近に於ける鑛産狀況及び稼行鑛區は左の如くである。

年別	數量	價額	稼行鑛區
昭和四年	二七〇瓲	四、三二〇円	三
同五年	三一九	三、七三三	一

昭和六年	二、四三一	一八、九四八	一
同七年	二、〇六三	八、〇〇四	三
同八年	五、四二五	三六、五四六	四

石綿　良質の蛇紋岩質のものが、忠淸南道洪城郡廣川面其の他に發見されてゐるが、短纖維で且多額の採掘費を要する不利があり、未だ開發されて居らぬ。其の他石灰岩地帶にある山鞣皮、及びその類似のものが江原道金化郡金化面、平安北道義州郡州內面等に存在してゐるが、これは未だその利用方法が確定してゐないため、正式に採掘してゐるところは殆んどない。從つて產額としては昭和八年に十二瓩價額百二十圓を出したのみである。しかし最近慶尙南道陜川郡でも優良なものが發見されたから、今後は石綿鑛業も發達し得る可能性がある。

硅藻土　慶尙北道慶州郡陽北面及び迎日郡東海面の海岸に近く存在してゐる。前者は旭硅藻土商會が採掘し、後者は石川商會が稼行して、何れもその附近に工場を設けて精製してゐる。

酸性白土　平安南道中和郡、慶尙北道迎日郡、江原道蔚珍郡等に發見せられてゐるが、未だ稼行せられてゐるものはない。これも尙今後各地に發見される望がある。

含油頁岩　朝鮮に於ける有煙炭層の上部に、厚い含油頁岩を夾有するものがある。現在迄に知られてゐるものは、咸鏡南道咸興炭礦・咸鏡北道鏡城郡朱南炭礦であつて、共に厚さ二十米內外を有してをり、朱南炭礦に於けるものは、タール分約七%を含有してゐる。其の他咸鏡北道慶興郡慶興炭田及び其の附近にも含油頁岩が存在するとのことである。

セメント用石灰岩　朝鮮の無煙炭層（古生代に屬するもの）の下部約六〇〇米に位する、奧陶紀石灰岩は如何なる地點にも存在し、優良なセメント用石灰岩として使用し得らるゝ。從つて朝鮮に於ける大部分の無煙炭田地方は、原料と燃料とを併備してゐる強味があり、セメント工業及び石灰窒素工業地として、最適の條件を具備するものといふことが出來る。現に小野田セメント會社の平安南道に於ける勝湖里及咸鏡南道に於ける川內里工場は、共に本層の石灰岩を使用してゐる。

四、中央乾式製錬所

鮮內の買鑛中央製錬所は二箇所にある。一は平安南道鎭南浦府外にある日本鑛業株式會社經營の鎭南浦製錬所、他は咸鏡南道興南にある朝鮮鑛業開發株式會社經營の興南製錬所である。尙ほ別項に記した有賀殖銀頭取の主唱に係る產金製錬會社の乾式製錬所が、近く忠淸南道の長項に建設せらるゝ筈である。

鎭南浦製錬所　の建設工事は大正四年五月に着手し、同年十月落成直ちに營業を開始し、一時盛況を呈したが大正七年以降一般鑛業の不振により原料鑛石の蒐集が思はしくなく、一面物價勞銀の昂騰、銅價の下落によつて製錬事業益々困難となり、遂に大正九年九月操業を中止するに至つた。然るに其後種々の

理由から之が復活を希望するもの多く、製錬所當局者も亦不斷の努力を以て之が目的達成を企圖し、先づ南滿洲鳳凰縣青城子鉛鑛山を直接經營すると共に、大正十四年九月から鉛鑛製錬を始め、次で昭和二年六月から銅鑛製錬をも小規模ながら再開するに至つた。其後金鑛熱の勃興から買鑛量も漸增し、昭和八年には約七百三十萬圓の產額を上げ、その後益々發展して大正五・六年頃の好況時代を凌駕する樣になつた。

製錬原鑛は同社經營の鮮內金山產鑛石のみでなく、鮮內及滿洲に於て產出する金・銀・銅・鉛鑛及內地其他より輸移入する硫酸滓等である。

製錬所の設備を大別すると試料場・分析場・銅鑛製錬場・鉛鑛製錬場等となるが、試料場には買入鑛石試料碎末用としてクラッシャー・ロールクラッシャー・グラインダー・パルヴェライザー・二分器・四分器・乾燥爐を設備し、此等によつて四分縮少せられた試料は堅く包裝を施し、一個を分析室に回付し、一個を賣鑛者に交付し、殘部二個は豫備として製錬所に保管する。

分析室に於ては買入鑛石・燃料並に製錬所製產品を分析し、傍ら無報酬で一般鑛業家の依賴に應じて居る。

可檢成分は金・銀・白金・銅・鉛・亞鉛・鐵・重石・水鉛・蒼鉛・ニッケル・砒素・安質母尼・滿俺・燐・硫黃・硅酸・石灰・苦土・礬土・石炭・骸炭等で乾式濕式の二方法により、前者は主として金銀の定量を、後者は金銀以外の成分を檢定する。此のため最新最善の設備を施し萬遺憾無きを期して居る。

銅鑛製錬の方法は、粉鑛は先づ燒粉爐で固結せしめ、塊鑛と共に錬鑛爐に依り含銅約二割の鈹（カハ）を作つて金銀を吸收せしめ、錬鈹爐で含銅約四割の鈹となし、更に之を眞吹床に裝入して含金銀粗銅を製出し、高爐出の鍰（カラミ）は水碎の上棄却する。

鉛鑛製錬の方法は、鑛石はすべて燒粉爐で焙燒して硫黃分を追出すと共に之を固結せしめ、次に熔鑛爐に依り直接含金銀粗鉛を製出する。

製錬場の設備を擧ぐれば左の如し。

焙燒爐	一六箇（一晝夜粉鑛二百瓲處理）
熔鑛爐	五座（同一晝夜鑛石二百二十瓲處理三座／同百三十七、五瓲處理一座）
眞吹爐	一二床（一床一操業四五瓲處理）
給水及循環水用タービンポンプ	七臺
ターボ送風機	三臺

製錬能力は鑛石一箇年約十五萬瓲で最近五年間の成績を見るに左の如くである。

年別	製錬鑛量	生產數量	生產價額
昭和四年	一二、九五八瓲	粗銅 五四六、八五七瓲	一、三四八、六八六円
		粗鉛 三三二、九七四	一二九、五二八

昭和五年	一四、五三一	粗銅 五八九、三四二 粗鉛 一二九、七六〇	一、三九八、二三五 四九、九四八
同 六年	一七、八五六	粗銅 七〇八、三八九 粗鉛 九七、五八六	一、九五六、二八四 三七、四六九
同 七年	三八、六〇二	粗銅 七二六、七二五 粗鉛 五〇〇、七六七	四、四一四、四〇二 四八五、二九一
同 八年	七六、三一九	粗銅 六四七、六〇八 粗鉛 七四二、一六一	六、五五七、七四四 七八三、〇七六

興南製錬所 は新興鑛山の附屬製錬所であるが、同鑛山産鑛石のみでなく、鮮内各鑛山産の鑛石をも買鑛して製錬してゐる。昭和八年四月完成し、同年五月から小規模ながら作業を開始したものである。

銅製錬法は、銅粉鑛は「スタンプ」で團鑛にした上、塊鑛は其儘含金銀硅酸鑛を熔劑として共に銅熔鑛爐に依り製錬し、金銀を鈹に吸收させ、之を更らに眞吹爐に移し錬銅の上含金銀粗銅とし、更に之を電氣製錬工場に於て電氣分解にかけるのである。

鉛製錬法は鉛粉鑛は其儘、塊鑛は八分の三吋以下に粉碎して燒粉爐で硫黄分を除去すると同時に燒結し之を熔鑛爐に入れて製錬し含金銀粗鉛を得、更に之を電氣製錬により分解してゐる。

製錬設備

粉鑛製團用搗鑛機 三臺

焙燒爐 三箇（一晝夜十二瓲處理）

同 一箇（一晝夜九瓲處理）

熔鑛爐

一、銅製錬用角爐 一座（一晝夜百五十瓲處理）

同 丸爐 一座（一晝夜五十瓲處理）

二、鉛製錬用丸爐 一座（一晝三夜十瓲處理）

錬鈹爐 四座（一床一操業四瓲處理眞吹爐）

送風機 二臺

電錬設備

銅電解槽 五六個（一晝夜産出量九百瓩）

鉛電解槽 二八個（一晝夜産出量二、七六瓲）

處理量 二、二四七瓲

産出額（昭和八年中）

産出	金	九五、五七〇瓦	二七四、二八六圓
	銀	八一四、九五四瓦	二六、八九三圓
	銅	一六七瓲	二一、六八六圓

一、鉛	五五瓩	一一、〇七〇圓

五、永安石炭低溫乾餾工場

本工場は朝鮮窒素肥料會社が咸北褐炭の一利用法として、昭和五年咸鏡北道明川炭田永安炭礦附近に建設したもので、同礦炭を原料とし、年十萬瓲の石炭處理能力を有してゐる。本工場では低溫乾餾によりてガソリン・パラフイン・重油・ピツチ・半成コークスを生成し、更に半成コークスは發電燃料とする外・メタノール・フオルマリン・ベークライト・塗料・ウルトロピンの原料となしてゐる。而して本年に入つて處理能力を倍加して二十萬瓲の石炭を處理すべき計畫の下に工場設備の擴張をなしつゝある傍ら、同道吉州炭田の開發を急いでゐる。蓋し斯の如き事業は國策的見地よりするも大に歡迎すべきことである。元來朝鮮の褐炭は、一般に低溫乾餾に適し高價なるパラフイン分を多く含有してゐる特徵がある。半成コークスは聊か灰分の多い缺點はあるが、前記の如き利用法がある外、窒素肥料工業と關聯して水素製造の途もあるので、將來は更に大規模工場の增設を見るものと考へられる。

六、兼二浦製鐵所

兼二浦製鐵所は鮮內唯一の製鐵所で、大正六年十月三菱合資會社臨時製鐵所建設部より三菱製鐵株式會社が事業を繼承し營業して來たが、更に日本製鐵株式會社の設立により、昭和九年二月、同社に讓渡せられて今日に至つてゐる。

同所の原料鑛石は勿論、熔媒鑛である石灰石等は、總て同地附近に產するが、燃料のみは遺憾ながら朝鮮產石炭は有煙炭も無煙炭も、共に製鐵用の骸炭原料に適するものが無く、之れが供給を內地・樺太又は滿洲から受けてゐる。

同所工場設備の主なるものは左の如くである。

一、製銑設備

名稱	型式	能力	數
熔鑛爐	スコツチ式	(一日二百五十瓲二基) (一日三百五十瓲一基)	三基
特殊銑爐	特許第一一五一二號	一日十八瓲	一基
送風機	ターボブロワー	一臺每分最大二萬三千立方尺	三臺
同	同	一臺每分最大三萬六千立方尺	一臺
熱風爐	マツクルアー三熖式	一基加熱面積四千二平方米	八基
同	同	同　五千三百二十平方米	三基
捲揚裝置	ダブルスキツプ傾斜式	オーチス式百五十馬力電動機付	一基
流鑄機	ユーリング式ダブルストランド型	一時間五十瓲	一基

備考

第一、熔鑛爐は大正七年六月火入をなし、昭和六年十二月吹卸し爾來休止中。

第二、熔鑛爐は大正七年八月火入をなし、昭和七年十月吹卸し、同十二月出銑能力增大を計畫し、八年八月火入をなして今に至つてゐる。

第三、熔鑛爐は昭和五年八月工事着手し、六年十二月火入を行つた。

二、製鋼設備

名稱	型式	能力	數
平爐	鹽基性シーメンス式	一基一回五十瓲 年産十一萬一千五百瓲	三基
平爐用瓦斯發生爐	ケルベリー式	一基一日焚炭二十瓲	一〇基
裝入機	架空回轉式	一臺容量五瓲	二臺
起重機	架空移動式	八十瓲外	八臺
石灰窯		一基一日六瓲	二基
苦灰窯		一基一日八瓲	二基

三、鋼材設備

大正十一年五月より休止してゐた製鋼作業は、昭和八年十一月再び作業を開始し、銑鋼一貫作業を復活した。

名稱	型式	能力	數
分塊ロール機	二重逆轉式	年産二十萬瓲	一基
大型ロール機	三重式	同 十二萬瓲	一基
厚板ロール機	三重ラウト式	年産八萬瓲	一基
均熱爐	蓄熱式	幅一・四米、長二・八米	二基
同	同	幅二・二米、長三・〇米	一基
再熱爐	同	幅三・三米、長一五米	一基
同	同	幅二・五米、長一一・五米	一基
瓦斯發生爐	ケルベリー式	内徑三米	四基

四、骸炭製造設備

名稱	型式	能力	數
骸炭爐	ウキルプツト式副産物捕集	五十門一日四百五十瓲	一基
同	同	二十五門一日二百二十五瓲	一基
同	同	三十五門一日三百三十瓲	一基
ビーハイブ式骸炭爐	一團爐二四本	一爐石炭裝入二十三瓲	五基
洗炭機	バウム式	一日六百瓲	一臺

其他副産物製造設備として、硫安製造・硫酸製造・タール蒸餾・ベンゾール捕集・耐火煉瓦製造・鑛滓

煉瓦製造・高爐セメント製造及煉炭製造設備等がある。

最近五年間の銑鐵產額は次の通りてある。

年別	數量
昭和四年	一五五、五一四瓲
同五年	一五一、三七九
同六年	一四七、八五五
同七年	一六三、六五三
同八年	一六三、九三七

尚銑鐵鋼鐵及副產物の昭和八年生產高は左の如くてある。

種類	生產能力	昭和八年生產高	同上價額
銑鐵	二〇〇、〇〇〇瓲	一六三、九三七瓲	三、九八五、六二四円
鋼塊	六五、〇〇〇	五、二八八	二三七、八二五
鋼片		(作業休止中)	
鋼板	五〇、〇〇〇	同	
骸炭	一三〇、〇〇〇	一七二、三〇九	一、九九八、一〇八
硫酸(六〇度)	二、〇〇〇	二、八五〇	五七、〇〇〇
硫酸安母尼亞	一、五〇〇	二、七四六	二〇六、七〇〇
ピッチ	三、〇〇〇	五、七五八	一一五、一六〇
ナフサリン	五〇〇	五七八	一四、四〇〇
タール油	一六、〇〇〇	四、六七八	五四、七八〇
煉炭	三六、〇〇〇	二一、七八八	一九〇、六八八
耐火煉瓦	六、〇〇〇	二、七〇四	八一、一二〇
耐火モルタル	―	三〇五	四、二七〇
高爐セメント	三六、〇〇〇	―	―
コールタール	―	九、三八〇	一四〇、七〇〇
無水コールタール	―	三七五	五、六二五
モーターベンゾール	―	一、三九二	一五九、八四〇
純ベンゾール	―	二三	五、四〇五
純トルオール	―	一一	三、三〇〇
ソルベントナフサ	―	一六六	二五、七五〇
鑛滓綿	―	二四	一、二〇〇
百%ベンゾール	―	三五六	七一、二〇〇

昭和九年十二月七日印刷
昭和九年十二月十日發行

朝鮮鑛業の概況

定價金拾錢　郵稅二錢

編輯兼發行者　朝鮮京城府櫻井町一ノ一五　德野眞士

印刷者　朝鮮京城府蓬萊町三ノ六二・三　羽田茂一

印刷所　朝鮮京城府蓬萊町三ノ六二・三　朝鮮印刷株式會社

發行所　朝鮮京城府南米倉町四番地　社團法人　朝鮮鑛業會
振替貯金口座京城四七〇六番